

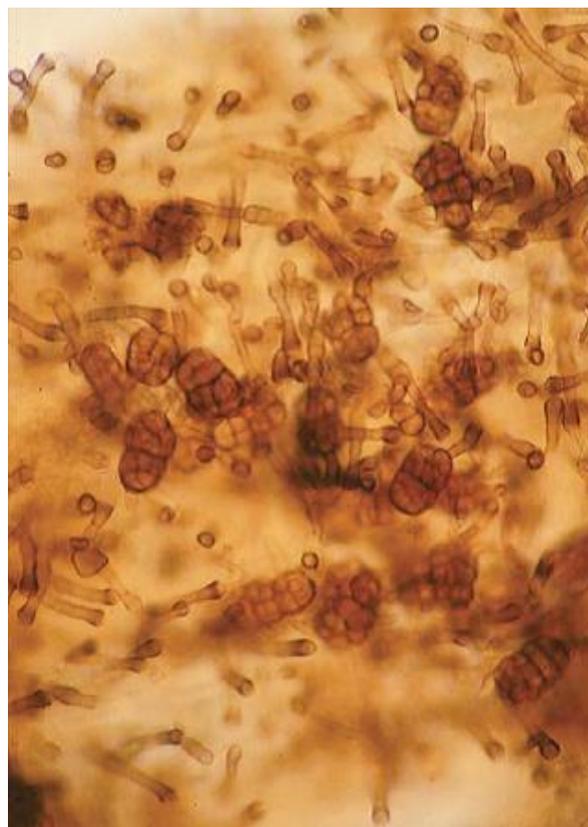
病害診断の現場から—今年目立った *Stemphylium*—

Stemphylium (ステムフィリウム) 属菌は *Alternaria* (アルターナリア) 属に似て、褐色、大型で縦横に隔壁を有する分生子を形成します。はっきりと分かる違いは *Alternaria* で見られる分生子先端の突出 (ビーク: 嘴胞) が、*Stemphylium* にはなく、そのため *Stemphylium* の分生子は俵型をしています。

Stemphylium 属菌には *Alternaria* 属菌と同様、腐生菌と植物病原菌が含まれます。それゆえ、この属の分生子が見えたからと言って、必ずしも病原菌とは限らず、枯死部位に腐生的に増殖しているものかもしれません。特に *Stemphylium* 属は、病原菌としての場合も、他の糸状菌病害と混発していることが多く、脇役的な病原菌ですが、本年、主役の病原菌として見る機会が重なったのでまとめてみます。

1. ネギ黒斑病 (*Alternaria*) とネギ葉枯病 (*Stemphylium*)

ともに葉および花茎に紡錘形の病斑を形成し、黒褐色スス状のカビを生ずる病害です。病斑には、黒斑病では輪紋があり、葉枯病では輪紋がないとされていますが、急進展した黒斑病では輪紋が無かったり、葉枯病でも分生子形成の濃淡が輪紋に見えたりして、あてにはなりません。黒斑病の *Alternaria* の分生子は長棍棒状 (左)、葉枯病の *Stemphylium* は俵型 (右) であり、顕微鏡を用いれば診断は容易なはずなのですが、それぞれの属に腐生菌が多いこと、またそもそも両病害が混発していることが多く、診断には多少のコツを要します (いずれ *Alternaria* 特集で解説します) が、黒斑病でも葉枯病も、薬剤での対応は同じです。



2. アスパラガス斑点病 (*Stemphylium*) とアスパラガス褐斑病 (*Cercospora*)

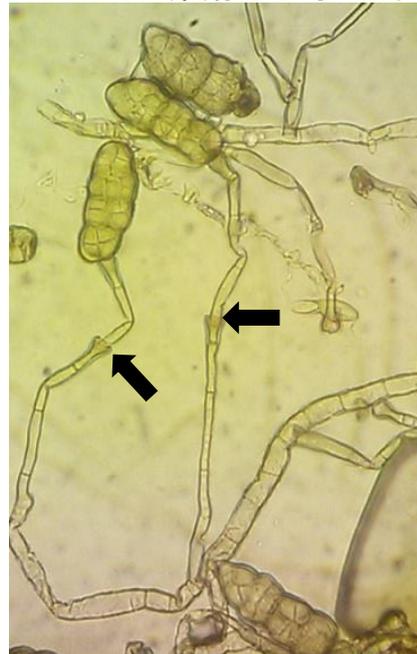
この両病害も混発することが多いようです（混発していても同じ薬剤で同時防除が可能です）。この画像には3種類のカビが写り込んでいます。大きな *Stemphylium* の分生子が二つ、まず見えると思います。下から立ち上がっている分生子柄の束は、①根もとに菌核様の集塊があり（左矢印）、②分生子柄先端の分生子離脱痕に環紋があること（右矢印）、から、*Stemphylium* のものではなく、*Cercospora*（サーコスポラ）のものと考えられます。さらに画面全面に散乱しているのは腐生的に増殖した *Cladosporium*（クラドスポリウム）の分生子です。

* *Cladosporium* 属も *Alternaria* 属と同様、代表的な腐生菌の属でもあります。保健衛生的には、*Cladosporium* は「黒かび」、*Alternaria* は「煤かび」と呼ばれています。サッシの窓枠のゴムや、浴室の壁を、黒く汚しているのは、だいたいこの2属です。



2. トマト斑点病 (*Stemphylium*)

最近、持ち込まれることが増えてきた病害です。水浸状の小斑点の周囲が黄化、退緑し、拡大した病斑の中心部は破れやすくなります。果実での発生は稀ということで、まだ果実病斑は見えていません。トマトには *Alternaria* 属による病害として黒斑病と輪紋病があります。これらは今のところ、混発は見えていませんが、いずれも葉の初期病斑の小斑点は似ているため、肉眼では混同しやすい病害ですが、いずれにしても薬剤での対応は同じです。



右画像の矢印部分、分生子柄の途中に襟のようなものが見えます。これは一度分生子を形成して離脱した痕で、さらに分生子柄が突き抜けて成長して次の分生子を作っています。このような分生子の作り方も同定のポイントになります。